

研究・調査報告書

報告書番号	担当
160	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学
題名 (原題/訳)	
Drinking behaviours and blood alcohol concentration in four European drinking environments: a cross-sectional study. 4つのヨーロッパ都市の飲酒環境における飲酒様式と血中アルコール濃度の横断研究	
執筆者	
Hughes K, Quigg Z, Bellis MA, van Hasselt N, Calafat A, Kosir M, Juan M, Duch M, Voorham L.	
掲載誌 (番号又は発行年月日)	
BMC Public Health. 2011 Dec 12;11:918.	
キーワード	
飲酒様式、飲酒環境、血中アルコール濃度、ヨーロッパ都市	
要旨	
目的： 飲酒環境における障害を減らすことは、ヨーロッパのアルコール政策において優先度が高くなりつつある。今回の研究では、夜間の飲酒様式について、4つのヨーロッパ都市の飲酒環境においてアルコール消費と血中アルコール濃度を調査した。	
方法： 4つのヨーロッパ都市（オランダ・スロベニア・スペイン・イギリス）の16～35歳の838人の飲酒者に飲酒状況を自記式質問法紙で調査した。アルコール消費は前夜に消費した空き瓶の量から推測した。血中アルコール濃度を推定するためにインタビュー時に呼気中アルコール濃度の測定を実施した。	
結果： 大部分の対象者、オランダ 56.2%、スペイン 59.6%、イギリス 61.4%は飲酒していた（スロベニア 34.8%）。イギリスの対象者では、血中アルコール濃度は、5時間以上お酒を長く飲み続けた人で血中アルコール濃度は男性では中央値 0.17%、女性では 0.13%で優位に増加していた。他の国では、血中濃度の上昇はあまり目立たなかった。血中アルコール濃度 0.08%以上は、男性で 19歳以上、イギリス人ではスピリッツ飲酒者にみられた。全ての都市において大部分の対象者は、多量飲酒者であった。	
結論： 飲酒量は夜間の飲酒様式により異なった。この研究において、他の都市と比較して、イギリスの都市の対象者では、節度のある飲酒に比べて多量飲酒が目立った。イギリス人の飲酒様式は、高い健康リスクと関連していた。ヨーロッパにおける飲酒対策は、泥酔するまで飲酒してしまう夜間の問題飲酒を減少させることに重点を置くべきである。	